

A区分・C区分共通

No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	音楽劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しても、複数の企画を実施可能
--------------------	--------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	こうえきざいだんほうじんにほんおべらしんこうかい		団体ウェブサイトURL
	公益財団法人日本オペラ振興会		https://www.iof.or.jp/
代表者職・氏名	理事長 渡辺佳英		
制作団体所在地	〒 150-0001	最寄り駅(バス停)	
	東京都渋谷区神宮前4-3-15東京セントラル表参道317号		
電話番号	03-6721-0995		
ふりがな 公演団体名	ふじわらかげきだん		団体ウェブサイトURL
	藤原歌劇団		https://www.iof.or.jp/
代表者職・氏名	総監督 折江忠道		
公演団体所在地	〒 150-0001	最寄り駅(バス停)	原宿駅
	東京都渋谷区神宮前4-3-15東京セントラル表参道317号		
制作団体 設立年月	1981年3月		
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
	理事長 渡辺佳英 常務理事 折江忠道、郡愛子、 下八川共祐、中村恵一 外理事15名、監事2名 評議員 19名 事務局長 大野隆 職員 18名		○団体構成員(公演事業2部門) 藤原歌劇団(正団員468名、準団員553名) 日本オペラ協会(正会員199名、準会員137名) 両団体所属(244名) 計1,113名 ○加入条件 公募オーディション、歌手育成部修了 生より推薦。

事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	仁科岡彦
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者名	福島久美子
本申請にかかる連絡先 (メールアドレス)	nishina@jof.or.jp		

制作団体沿革	<p>公益財団法人日本オペラ振興会は、藤原歌劇団と日本オペラ協会の統合合併により、昭和56年文部大臣の設立許可を受け「藤原歌劇団」「日本オペラ協会」の名称は法人組織内の公演事業部門として存続させている。藤原歌劇団は、昭和9年6月に故藤原義江により創立され、我が国初の本格的オペラ団体として今日まで公演活動を継続。日本初演を含む80作を超えるオペラをこれまでに上演しており、特にイタリアオペラを主軸とする公演路線は広く親しまれている。</p> <p>平成24年4月より公益財団法人日本オペラ振興会として認可され、平成27年4月より折江忠道が第4代総監督に就任している。</p> <p>年間3～4本の本公演を実施しており、令和2年度はコロナ禍において初のオペラ公演となる「カルメン」を8月に上演したほか、年明け1月には「フィガロの結婚」「ラ・ボエーム」、翌2月には沖縄を舞台とした「キジムナー時を翔ける」を上演し、いずれも好評を博した。令和3年4月には財団設立40周年記念として藤原歌劇団・日本オペラ協会合同公演池辺晋一郎「魅惑の美女はデスゴッデス! (死神)改題」プッチーニ「ジャンニ・スキッキ」、6月プッチーニ「蝶々夫人」9月ベリニー「清教徒」1月ヴェルディ「イル・トロヴァトーレ」2月伊藤康英「ミスター・シンデレラ」、令和4年には4月ヴォルフ＝フェッターリ「イル・カンピエッロ」6月モーツァルト「コジ・ファン・トゥッテ」11月新作「咲く」1月プッチーニ「トスカ」2月三木稔「源氏物語」を上演した。</p>		
学校等における 公演実績	<p>学校等における 公演実績 学校等における公演実績</p> <p>平成12年～平成23年文化庁学校公演オペラ「カルメン」 129公演</p> <p>平成24年～平成26年文化庁学校公演オペラ「魔笛」 37公演</p> <p>平成25年6月 潤徳女子高校・中学校 藤原歌劇団合唱コンサート</p> <p>平成28年5月 昭和女子大学鑑賞公演オペラ「椿姫」</p> <p>平成28年7月 日本女子大学附属高等学校鑑賞教室「カルメン」ハイライト 等</p> <p>平成29年6月 潤徳女子高校藤原歌劇団合唱コンサート</p> <p>平成30年11～12月 文化芸術による子供の育成事業 オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 18公演</p> <p>令和元年11～12月 文化芸術による子供の育成事業 オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 13公演</p> <p>令和2年10～12月 文化芸術による子供の育成事業 オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 5公演</p> <p>令和3年5月 昭和女子大学鑑賞公演オペラ「蝶々夫人」</p> <p>令和3年12～令和4年1月 文化芸術による子供の育成事業 オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 6公演</p> <p>令和4年11月～12月 文化芸術による子供の育成事業 オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 6公演</p> <p>令和5年10月～11月 文化芸術による子供の育成事業 オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 7公演</p>		
特別支援学校等における 公演実績	<p>特別支援学校における公演実績</p> <p>平成25年 9月 栃木県立足利中高特別支援学校(文化庁次代を担う子供の舞台芸術体験事業)</p> <p>平成30年 11月 千葉県立野田特別支援学校(文化芸術による子供の育成事業)</p>		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=2h4Kh6ec2d4&t=756s	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

公演・ワークショップの内容

【公演団体名

藤原歌劇団

】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 全1幕 日本語上演			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>オペラ「助けて、助けて 宇宙人がやってきた！」 全1幕 日本語上演 作曲/台本:ジャン・カルロ・メノッティ(Gian Carlo Menotti) 演出:岩田達宗 美術:島次郎 衣裳:増田恵美 照明:稲葉直人 振付:鷺田実土里 音響:寺部和貴</p> <p style="text-align: right;">公演時間 90 分</p>			
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当あり	該当コンテンツ名	助けて、助けて、宇宙人がやってきた
	該当事項がある場合	権利者名 フジパシフィック音楽出版	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済
演目概要	<p>オペラ「助けて、助けて、宇宙人がやってきた！」 ジャン・カルロ・メノッティ(Gian Carlo Menotti)作曲 全1幕日本語上演</p> <p>～あらすじ～ 謎の宇宙人、グロボリンクスが地球へやって来た！ 子ども達は春休みが終わり、スクールバスで学校へ向かう途中、突然バスが故障し、止まってしまう。そこへ、グロボリンクスが現れ、子ども達は大騒ぎ！運転手のトニーはバス警笛を鳴らしエイリアンを追っ払う。トニーは、グロボリンクスが“アコースティックの音楽”に弱いことを知り、子ども達に楽器を持っているか尋ねる。そんな中、一人だけヴァイオリンを持っていたエミリーは、「私がゆくわ！」と学校へ助けを求めに向かう…。一方学校では、子ども達が来ない、と校長のストーン先生は心配でたまらない。音楽のユタポーバ先生は、子ども達が春休みに楽器を持って帰らなかったとストーン先生に嘆いている。そこに、グロボリンクスが現れ校長先生が襲われてしまう。先生達は楽器を鳴らし何とかグロボリンクスを撃退する。先生達はそれぞれ楽器を持ち、帰ってこない子ども達を迎えに行く。さて、子ども達は、先生達は、エミリーは、一体どうになってしまうのか？</p>			
演目選択理由	<p>当団はアメリカの作曲家ジャン・カルロ・メノッティとの縁が非常に深く、1974年にはメノッティ本人を我が国へ招聘し、彼自身の演出により「領事」「電話」「霊媒」といった演目を、藤原歌劇団の本公演で上演し、成果を挙げて参りました。 「助けて、助けて宇宙人がやってきた」は1985年から2年間「文化庁青少年芸術劇場公演に」採択され、地方10か所以上で上演し、多くの学生・児童に鑑賞して頂きました。その公演は、栗國安彦の演出による、ホールでの大規模上演でした。 本公演は、藤原歌劇団が協力し、多数の所属歌手が出演した2017年11月東京文化会館主催公演のプロダクションにより、平成30年度以降「文化芸術による子供の育成事業」において学校公演を続けて参りました。 この作品は、学校が劇の舞台であり子供たちに臨場感のある題材であることから「文化芸術による子供の育成事業」に相応しい演目だと確信しております。</p>			

<p>児童・生徒の共演、参加又は体験の形態</p>	<p>学校が舞台となっているこの作品では、実際の生徒や宇宙人に扮して、プロのオペラ歌手やダンサーと共演することができます。</p> <p>-児童、生徒の参加内容は-</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合唱①:学校の生徒役子ども達10人以内 ・合唱②:みんなで校歌を歌って参加(人数上限なし) ・合唱③:学校の生徒役の子ども達10人以内 ・ダンス①:宇宙人役(宇宙人襲来)8人 ・ダンス②:宇宙人役(宇宙人喜びの踊り)8人 ・ダンス③:宇宙人役(エミリーと友達になりたい宇宙人)8人 <p>ワークショップにて、指揮者、ピアニストによる歌の練習、振り付けによるダンスの練習や動きの練習、演出助手による演技の稽古を実施します。本番では、キャストと一緒に出演して頂きます。</p>				
<p>出演者</p>	<p>指揮:仲田淳也/中橋健太郎左衛門 エミリー:中畑有美子/山邊聖美 音楽の先生:佐藤美枝子/別府美沙子 校長先生:折江忠道/持木弘 バスの運転手:岡昭宏/大石洋史 学校の門番:市川和彦/山内政幸 算数の先生:牧野真由美/松原広美 国語の先生:和下田大典/市川宥一郎 理科の先生:龍進一郎/岡山肇 アナウンサー:柴山秀明 生徒:安藤千尋/伊藤香織/加藤美帆/芝野遥香/中桐かなえ グロボリンクス(ダンサー):鷲田実土里/上原彩弥/光延真鈴 ピアノ:1名 ヴァイオリン:1名 計20人</p>				
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者: 20 名 スタッフ: 19 名 合 計: 39 名</p>	<p>運搬</p>	<p>積載量: 4 t 車 長: 10 m 台 数: 2 台</p>		
<p>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	<p>前日仕込み</p>	<p>無</p>	<p>前日仕込み所要時間</p>	<p>時間程度</p>	
<p>本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月 0日 11月 0日</p>	<p>7月 0日 12月 0日</p>	<p>8月 0日 1月 0日</p>	<p>9月 10日 計</p>	<p>10月 15日 25日</p>
<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>					
<p>児童・生徒の 参加可能人数</p>	<p>本公演</p>		<p>共演人数目安</p>	<p>20人～40人程度</p>	
			<p>鑑賞人数目安</p>	<p>100人～800人程度</p>	

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。



【公演団体名 藤原歌劇団 】

児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	10人～30人程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>児童、生徒の参加内容は、①学校の生徒役の子ども達10人～20人②宇宙人グロボリンクス役8人程度の子ども達が出演します。</p> <p>①学校の生徒役の子ども達は先生達と一緒にスクールバスの子ども達を助けに行くところで参加しますが、先ず指揮者、ピアニストによる歌唱の練習を30分程度行い、続いて演出助手による演技の立ち稽古を実施します。子供たちの歌や演技がグロボリンクスを退治できるという気持ちを込めて繰り返し練習し本番に備えます。</p> <p>②宇宙人グロボリンクス役は宇宙人登場シーンで演技者として出演をします。振り付けの先生に動きを付けてもらいながら、宇宙人の動きを身に着け、重要な演技を体得してゆきます。その他に宇宙人が襲来したシーンで生の音楽が宇宙人が苦手だと知り、全校生徒で学校の校歌を歌って宇宙人を追い払おうとします。そのシーンの説明もワークショップで行います。</p>		
ワークショップのねらい	<p>10人～20人の子ども達役は歌いながら演技をする、いわゆるオペラの体験を実際に体得できるよう繰り返し練習して覚えていただきます。</p> <p>グロボリンクス役は宇宙人の特殊な衣裳を着てダンスをします。振付の先生から指導を受けます。躍動感のあるダンスを指導します。全体としては一つのオペラ作品を創り上げる過程を感じることができるよう、楽しみながら歌や演技を体得できるよう指導します。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>生徒役の子どもたちが歌うメロディの音楽は現代的で親しみやすいとは言えませんが、ワークショップでは繰り返し練習して身に着けるように努めます。</p>		

本事業への申請理由

【公演団体名

藤原歌劇団

】

①本事業に対する取り組み姿勢

藤原歌劇団では創立以来86年に亘りオペラ上演を行ってきましたが、特に戦後からは学生対象の鑑賞公演も数多く実施しており子供たちに舞台の楽しさを提供してきました。

その中でオペラ歌手の生の歌声の魅力、オペラにおける合唱の歌唱力演技力魅力を十分に体感していただけるよう工夫を重ねており、特に2000年から開始した学校の体育館での生徒参加型公演では歌手達(ソリスト、合唱含め)スタッフが皆で子供たちと一体となって公演を創り上げる貴重な経験を積むことができました。

平成30年の「文化芸術による子供の育成事業」で藤原歌劇団はスタッフ・キャストを一新しました。昨年度のワークショップや本公演を通じて生徒の皆さんと交流を持ってきましたが、皆さん意欲的に作品に取り組んでいます。

子供参加のシーンに関しては小学校低学年の児童の皆さんも参加が可能なように内容を再編しております。劇中のエイリアンを撃退する歌は各学校の校歌に変更し、舞台に出演しない生徒の皆さんにも皆で音楽に触れる機会を設けております。

藤原歌劇団では、この作品が現代的なテーマであり学校が物語の舞台であること、音楽が地球を救うというテーマであること、現代音楽でありながら感動的な美しい音楽が随所に現れ子ども達にきっと伝わるであろう事など、学校公演に適していると考えております。引き続き、是非今事業の音楽劇の作品に加えていただきたく切に希います。

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

1. 公演の実施にあたり、必要事項を記載した参加校用のマニュアル及び音源/映像資料を作成。学校担当者に事前に配布して、公演概要や必要事項を予めご理解頂けるよう工夫する。尚且つ学校と連絡を密にとりワークショップ、本番を迎えるよう努力する。
2. ワークショップ1回と当日の練習での生徒の参加となるため事前に参加部分の練習用DVDを作成して事前学習に役立てて頂く。
3. 終演後指揮者、ソリストは生徒代表や出演した生徒と交流会を行い、公演や作品について感想を述べあう機会を持つこととします。(ただし各校の意思を尊重し、希望されない場合には実施を見送ります。)

本事業に対する
取り組み姿勢、および
効果的かつ円滑に実施
するための工夫